

向学

徳之島高等学校 進路通信
進路指導部 進路情報係 第9号
発行日 R6. 1. 26 (金)



合格する小論文とは？

皆さん、入試にはさまざまな形式があることを知っていますか？大学入試の方式には、一般選抜・学校推薦型選抜・総合型選抜の3種類があります。形式によって、教科の筆記試験だけでなく、実技や面接、小論文といった試験が行われます。また、専門学校の入試や就職試験でも小論文が課される場合があります。

では、小論文入試とはどのようなものなのでしょうか？教科の筆記試験対策と同様、受験に小論文が必要であるとわかってから対策をしていては間に合いません。1・2年生のうちから正しい知識を身につけ、効率よく対策を行っておきましょう！

Q.小論文とは何か？

A.すべては設問の中に！

出題者が知りたいのは、あなたがどのように情報に向かい合い、どのように考え、あなたがどのように課題を解決するのか、その「**過程**」を知りたいと思っています。

まずは目の前に書かれている課題や問いを読みましょう。

次に準備をします。対立する意見やものごとの過去や未来を想像しながら自分の立場を選び出しましょう。

立場が明確になったら小論文を書きます。実際に書いてみることで、能力は養われます。養ってきた能力で、規定時間内に規定文字数内の文を書けるようになります。

Q.小論文に必要な力は？

A.重要ポイント TOP3！

①設問への対応をスツキリと

「何を問われているのか」を理解する能力と、問われていることに対して**スツキリ、シッカリ答える**能力が大切です。

②自分の立場をクツキリと

文章の冒頭で述べていることと文章の末尾で述べていることが、同じ人が書いたものとは思えないほど違っていたら合格はできません。一度に多くの場に立つことはできないため、自分の立場をよく考え、それを**最後まで維持**しましょう。

③対立意見をハツキリと

自分の意見だけでなく、対立意見を示します。その際、対立意見の「良い点」をハツキリと示します。相手の悪いところを攻撃するだけの文章よりも、**対立意見の良い点をふまえて展開**することが大切です。そこに「総合性」が生まれます。「自分の立場」を維持しつつ、「総合性」を示す文章にしましょう。

Q.どうやって鍛えるのか？

A.とにかく書く！

読んでもらって意見を聞く！

①1つの文で答えてみる

設問に対して、たった一つの文で答える練習をします。「賛成」の立場と「反対」の立場、それぞれの立場でシンプルに答えてみて、それに「**どうして**」と**自問**してみましょう。

②議論をしてみる

議論とは「相手をやっつける」ことではありません。相手の言葉に耳を傾け、「なぜそのような立場を示すのか」を尋ね、考えます。自分が「なぜそのような立場を示すのか」を語り合い、**互いの共通点と相違点を明らかに**しましょう。

③書いた文章を読んでもらう

書いて終わりでは上達しません。他者に読んでもらい、そのときに読者が示す疑問や異論は自分の宝物となります。**他者の意見をふまえて書き直す**ことを繰り返しましょう。

○小論文の出題パターン

課題論述型	文章読解型	資料分析型
設問文はテーマを掲示するだけの場合が多く、ヒントとなる具体例も少ない。「ネット世論」など、1語が与えられるだけのこともある。 Point どれだけの論点をふくらませることができるか。	課題となる文章を読んで、設問の求めるところを考察する。文章の長さは大学によって異なるが、そこから主旨を読み取るスタイルは共通。 Point 最大のテーマを汲み取れるか。	資料の読み上げではなく、資料から判別できることを述べるのが基本。多くの特徴をもつデータの必要な箇所注目する。 Point 注目すべき箇所を時間内に絞り込めるか。

○小論文でねらわれる 2023 年ニューストピックス 10

小論文はその年のニュースやトピックスから出題されることが多いです。日頃からニュースや新聞をチェックしましょう。自分の進学したい分野や興味のある分野については特に詳しく調べておきましょう。

- 01 出生数が年 80 万人割れ 統計開始以降で過去最少
- 02 日韓首脳会談開催 「シャトル外交」再開で合意
- 03 全年齢で自転車ヘルメット着用が努力義務に
- 04 「こども家庭庁」発足 少子化からいじめ問題などの司令塔に
- 05 統一地方選挙 日本維新の会が躍進するも投票率は低調
- 06 日銀・植田新総裁会見で「金融緩和策継続が適当」
- 07 国内での新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行
- 08 広島で G7 サミット開催
- 09 マイナンバーカードと健康保険証の一体化改正法可決・成立
- 10 文部科学省が教育現場での生成 AI 活用ガイドラインを公表

旺文社の蛍雪時代特別編集を参考にしています。「小論文入試 2019～2023 出題内容 5 か年ダイジェスト」興味のある人は、進路資料室に見に来てください！

徳高コラム

6 月から継続している「徳高コラム」。1 年生は「言葉を知ること（基礎）」、2 年生は「読んだり考えたりすること（発展）」、3 年生は「書くこと（実践）」の達成をめざして取り組んでいます。

○2 学期に提出された意見文の紹介

筆者の主張に賛成する理由を述べたり、筆者の主張に批判的思考を重ねたりと、回を重ねるごとに内容の深まりが感じられます。「継続は力なり」の成果ではないでしょうか。

- ・私は筆者の「学習は苦勞して同じことの繰り返しで身に付くものだと思います」という意見に賛成です。なぜなら、九九など努力して覚えたものはしっかりと脳に定着しているからです。だから、これからも繰り返し学習する努力をしていきたいです。(10/19 提出・1 年生)
- ・梓にはめず個々の才能を伸ばすには、大人たちが変わる必要がある」という筆者の意見に賛成だ。確かに、突出した才能をもっていても周りの環境（常識というフィルター）が原因でその才能を十分に発揮できないことがあるので、大人がそれに合わせていく必要があると思う。しかし、合わせすぎてしまっても逆に傲慢で我儘な人間に育ってしまう可能性があるので、合わせるときと合わせないときのメリハリをつける必要があると考える。(11/9 提出・1 年生)
- ・筆者は、「居住する自治体の財政力次第で費用負担や受けられるサービスに格差が生じている」と述べている。物価の高騰によって子どもの成長だけでなく、親を含めた大人が支えていた給食に影響が及ぶことは好ましくない。だが、むりやり無償化を進めると各自治体も苦しむ。とても難しい問題だ。(12/14 提出・2 年生)

